

電動式の手動切り替え操作

停電などの発生により、電動シャッターが操作できない事態が発生した場合は、シャッターを手動操作に切り替えて使用できます。



警告

2～11ページの警告事項・注意事項を守って使用してください。

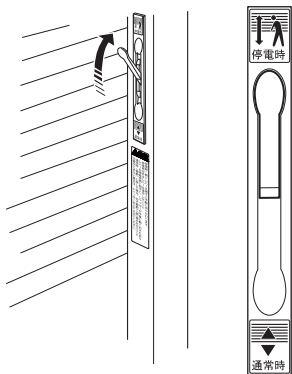
これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

注 記

- 停電等の緊急時以外は切り替え操作をしないでください。
- シャッターの下に、人や物がないことを確認してから操作してください。
- 停電時、手動に切替操作する際に、シャッターが急に上昇、下降する場合があります。
手動切替操作する際には、シャッターカーテンを抑えながら切替操作してください。
- 手動操作のままでは、シャッターが開いてしまうため手動操作後は、必ず電動操作に戻してください。

電動操作→手動操作の切替え方法

- 1** 手動切替装置のレバーをゆっくり引き上げ、停電時側に移動させてください。



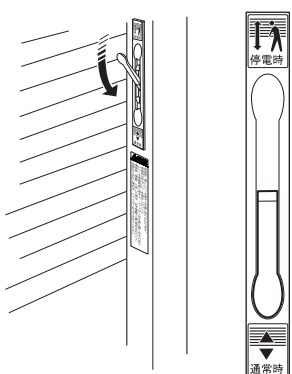
- 2** シャッターを手動で静かに動かします。



- 3** 切替えができない場合は、シャッターを上下させてから動かしてください。
※ 降下ラインに注意してください。足などをはさむおそれがあります。

手動操作→電動操作の切替え方法

- 1** 手動切替装置のレバーをゆっくりと引き下げ、通常時側に移動させてください。



- 2** シャッターを静かに動かし、手動で動かないことを確認してください。動く場合は、レバーを一度停電時側に戻し、再度通常時側に引き下げてください。



- 3** 27 ページの「停電復旧後または電動操作切替え後の復帰操作」の手順にしたがって再設定を行ってください。

停電復旧後または電動操作切替え後の復帰操作

停電復旧後または手動操作から電動操作に戻したときに全閉位置や全開位置が変わっている場合があるため、次の操作をおこなってください。

※ 開ボタン操作後、復帰動作が完了するまで3秒おきにブザーが鳴ります。
ボタン操作前はブザーは鳴りません。

1

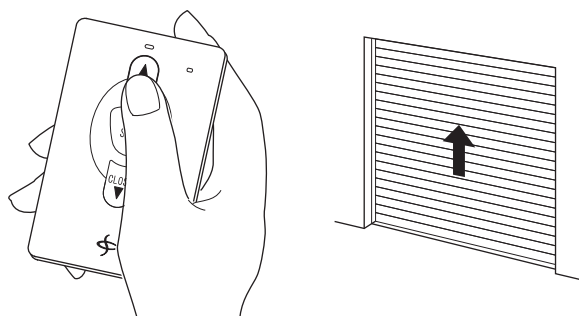
開ボタンを押して、シャッターを全開させてください。

一旦下がる動作をしたあと、シャッターが全開まで動作します。

※シャッターが全開で停止するまで、開閉操作しないようにしてください。

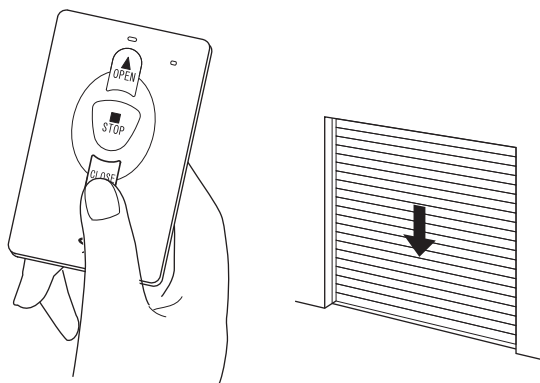
※停電復旧後または手動操作から電動操作に戻したときに、全開になるまで、閉ボタンは一旦操作不能となります。必ず開ボタンを押して下さい。

※※シャッターが全開状態の場合でも、開ボタンを押してください。



2

閉ボタンを押して、シャッターが全閉位置で停止することを確認してください。



8. 修理のご案内

いつでも安心

シャッター、ドアに関する修理・取替、点検のご相談は、お気軽に下記の文化シャッターサービス株式会社フリーダイヤルまでお電話ください。

アットタイムサービスシステム



0120-365-113

- 24時間365日受付
※一部の地域（離島など）については、対応できない場合があります。
- 携帯電話からもつながります
- 最寄りのサービスステーションにつながります



基本的な注意

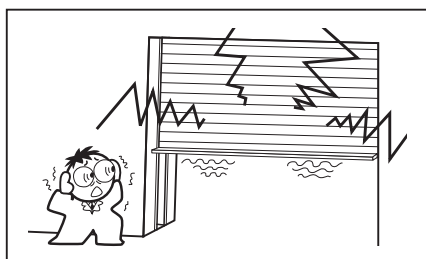


警告

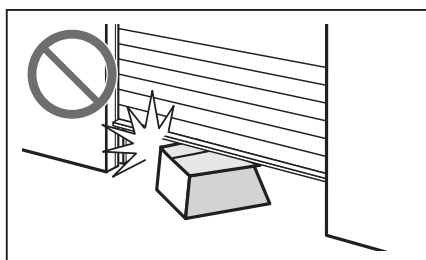
次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



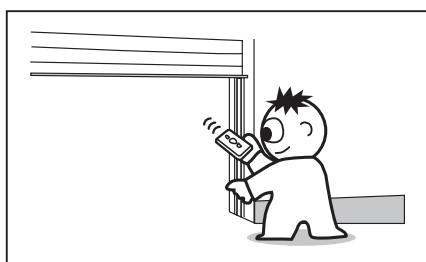
製品を長期間に渡って安全に使用するためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。41 ページをご覧ください、必ず実施してください。



43 ページ記載「7. 故障かなと思ったら」にもあてはまらない異常な動作をしたり、異常な音がした場合は、直ちに使用を中止して 44 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社に修理をご依頼ください。



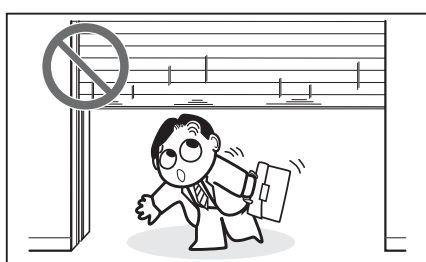
シャッターの下で立ち止まったり、車を止めたり、物を置いたりしないで下さい。思わぬ事故につながったり、火災時に完全に閉まらず、被害を拡大するおそれがあります。



開閉操作をする際は、シャッターの下に人がいないこと、物がいないことを確認してから操作してください。



シャッターが完全に閉まるまで、シャッターのそばを離れず、目を離さないようにしてください。第三者がシャッターにはさまれる場合があります。特にお子様やペットがいる環境下でのご使用には十分ご注意ください。

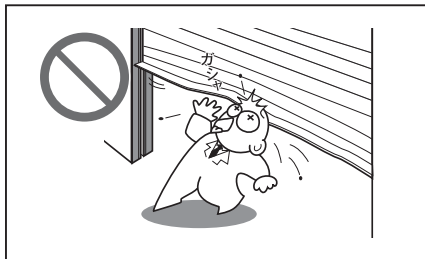


シャッターが動いているときに人や車の出入りをしないでください。シャッターが外れたり、故障したり、また思わぬ事故につながる場合があります。

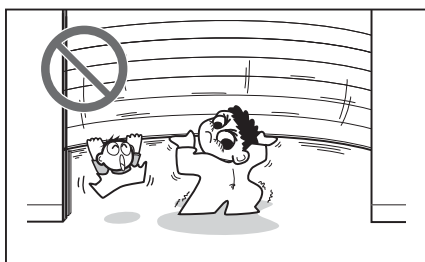


警告

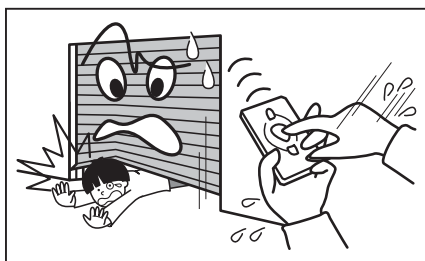
次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



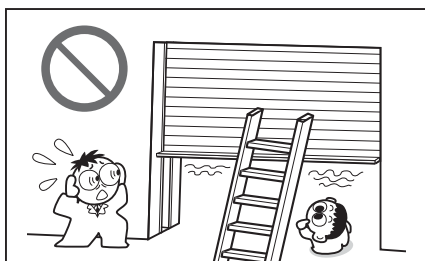
シャッターが完全に開いてから通行してください。完全に開けずに通行すると、ぶつかってケガをしたり、車に傷がつくなど、物を破損するおそれがあります。また、不意にシャッターが降りて思わぬケガや事故になる場合があります。



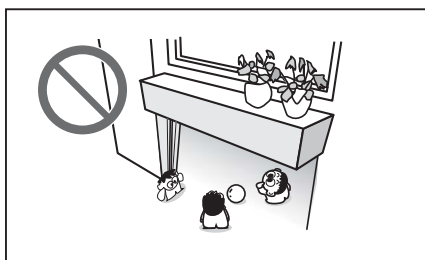
シャッターが動いているときは、手で止めようとしたり、ぶら下がったり、カーテンやレールに指をかけるなど、製品に触らないでください。製品が故障したり、はさまれたりするなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。



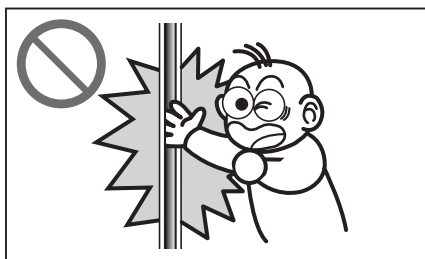
シャッターを閉めているときに開けたい場合は一旦「STOP(とまる)Ⓢ」ボタンを押してから、開ける操作をしてください。「STOP(とまる)Ⓢ」ボタンを押さないとシャッターは閉まりつづけます。



製品に物を立てかけないでください。物を立てかけたまま開閉すると、物が倒れてくるなどして思わぬ事故になる場合があります。



製品の上に物を置かないでください。風やシャッター開閉中の振動などで物が落下し、思わぬ事故になる場合があります。

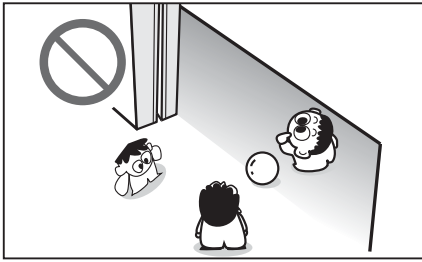


ガイドレールの溝など、部材のすき間や、動く部分に手や指を近づけたり、入れたりしないでください。思わぬけがをする場合があります。

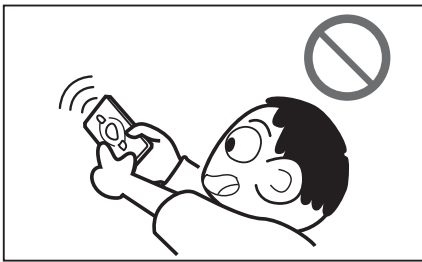


警告

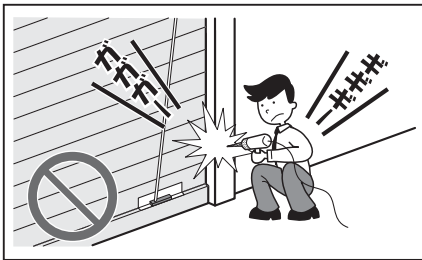
次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



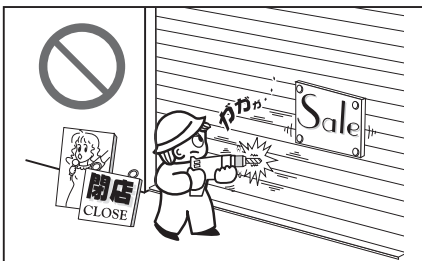
シャッターの下やその付近で子どもを遊ばせないでください。
思わぬケガをする場合があります。



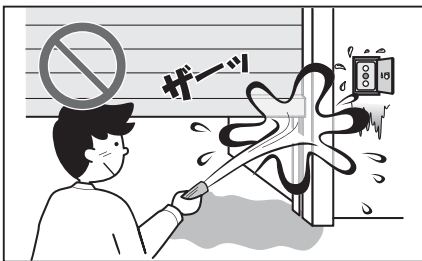
子どもには、セレカードや押しボタンスイッチなどの操作スイッチを操作させないでください。子どもや第三者が誤ってはさまれるおそれがあります。シャッターを使用しない場合は、押しボタンスイッチに鍵をかけてください。



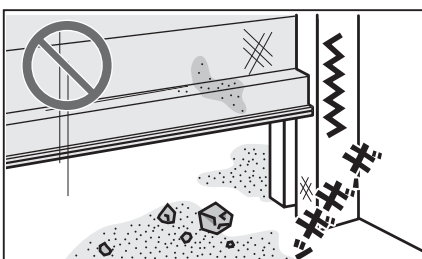
ガイドレールやボックス部など、製品にビス止めしたり釘を打ちつけないでください。また、物をぶつけないでください。
故障の原因となったり、配線などが傷つき、本来の機能が発揮できなくなったり、漏電したりするおそれがあります。



製品の日常点検以外の点検・修理は専門知識が必要ですので、当社の手配によらない分解・改造・修理は絶対にしないでください。分解等により、その他部位にも故障が生じたり、機能が発揮されず損害が発生するおそれがあります。製品の点検・修理等が必要な場合は44ページ記載の文化シャッターサービス株式会社に依頼ください。



製品に水をかけないでください。
汚れたときなどは、37ページに記載してある「5. お手入れ方法」にしたがって清掃してください。
製品に水をかけるとサビの発生や部品の消耗が促進されたり、電装品がある場合は漏電して勝手に動作したり感電するなどの思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

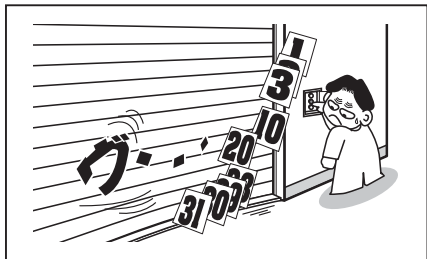


座板や周辺の床はこまめに清掃してください。
座板の隙間に泥や小石がつまると、開閉機能や障害物感知機能が正しく作動しない場合があります。

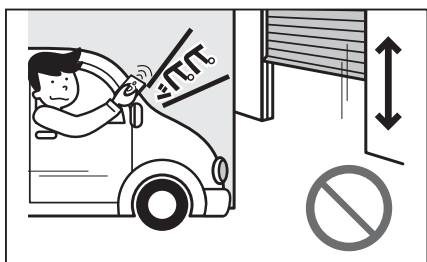


警告

次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

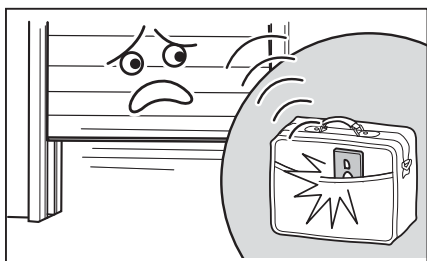


少なくとも1ヵ月に1回は開閉してください。長期間使用しないと、サビをはじめとした不具合が生じる場合があります、それを無理に動かすと思わぬ事故につながるおそれがあります。



シャッターの见えないところから操作しないでください。

人や車などがはさまれて、生命にかかわる事故になる場合があります。



セレカードをカバンや服のポケットの中に入れるときは、スイッチにカバンやポケットの中の物があたらないようにしてください。

スイッチに物があたると、意図せずシャッターが動き出す場合があります。

セレカードの誤操作防止の設定もあります。

詳しくは、35 ページ「セレカードのスイッチ操作の切替方法」を参照してください。

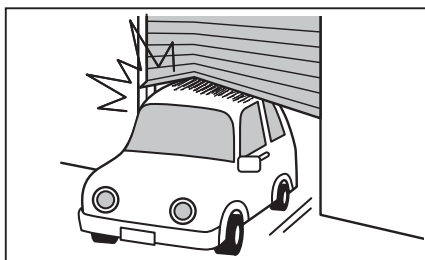


停電などでシャッターの電源が切れた場合、復旧後の1回目の開閉操作に限り、障害物感知装置が効きにくくなる場合がありますので、開閉操作には、特にご注意ください。



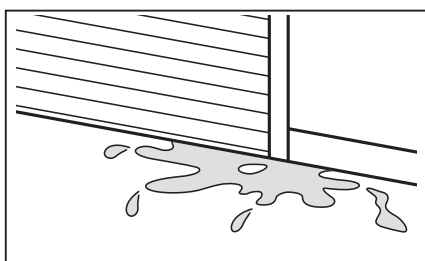
注意

次の注意事項を守って使用してください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。

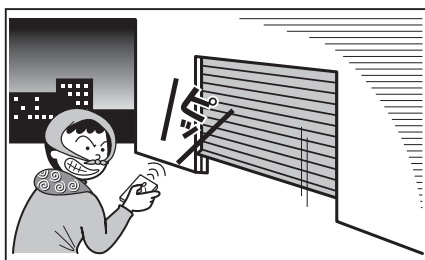


万一シャッターに障害物が挟まれた状態で停止した場合にはセレカード操作もしくは押しボタンスイッチにより、一旦シャッターを開けてから障害物を取り除いてください。

挟まった状態で無理に取り除くとけがをしたり、シャッターや障害物が破損する場合があります。



シャッターの内側に水が入ってくる場合があるので、濡れて困るものをシャッターの近くに置かないでください。

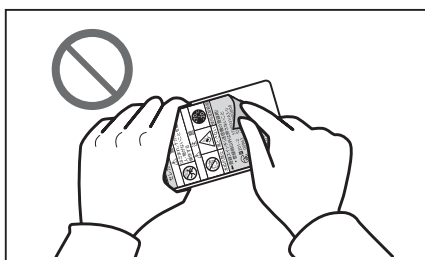


リモコンや鍵は紛失しないようご注意ください。

第三者によってシャッターを開けられるおそれがあります。

リモコンを紛失した場合は、32 ページをご覧ください。紛失したリモコンの ID コードを抹消してください。

鍵を紛失した場合は、鍵本体の交換をおすすめします。鍵本体の交換は 44 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください（有償）。

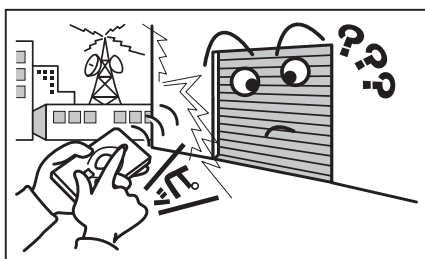


セレカードの技術基準適合証明ラベル（本体裏面に貼ってあるラベル）ははがさないでください。

技術基準適合証明のないものは使用が禁止されています。



リモコンの海外での使用は絶対にしないでください。外国の電波法に準じていません。

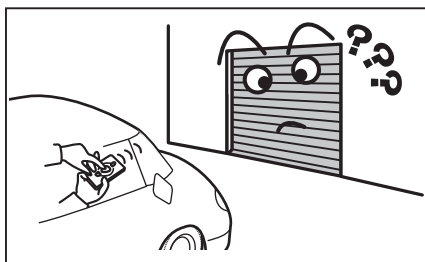


テレビ・ラジオの送信所近辺などの強電界地域でセレカードを使用した場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。



注意

次の注意事項を守って使用してください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



窓に熱反射ガラスを使用している車や建物の内側から操作する場合、電波の透過性が低いため、到達距離が短くなる場合があります。

また、アンテナ（別売）を設置することで、改善される場合がありますので、44 ページに記載してある文化シャッターサービス株式会社にご依頼ください。

注 記

次の注意事項を守って使用してください。注意事項を守らないと本製品に故障が発生したり、性能が発揮できない場合があります。

<故障防止について>

- セレカードのスイッチを押すときは、セレカード先端をシャッターに向け1～2秒軽く押してください。強く押し続けると故障の原因になります。
- セレカードの分解・改造は絶対にしないでください。分解・改造は電波法で禁止されています。
- セレカードを水に浸けないでください。水の中に入れると内部まで浸水して故障の原因になります。
- セレカードを落としたり、乱暴に取り扱わないでください。
- セレカードを車のダッシュボード、直射日光下で高温になるところ、湿気の多いところ、極端な温度になるところ（70℃以上または－20℃以下）に放置しないでください。
- 冬期に床面の水分が凍結して座板が床に凍りついた場合は、座板付近の氷を砕いてから開放操作してください。
- 雷の音が鳴り出したら早めにシャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を切ってください。
落雷の大きさによっては動作しなくなるおそれがあります。

<誤動作について>

- セレカードに強い磁気を近づけないでください。セレカード内部の電子部品が磁気により正常に動作しない場合があります。
- 電波式無線中継局からの強電界の電波がセレカードに加わった場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。また非常に強力な電波（不法CB等）がセレカードに加わった場合、誤動作する恐れがあります。
- 静電気などの影響により正常に動作しない場合があります。
- 長期間使用しない場合は、電波障害等による誤作動を防ぐため、シャッターの電源を切ってください。

<保管・電池交換について>

- 長期間使用されない場合は、電波障害等による誤作動を防ぐため、シャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を切ってください。また、腐食防止のためセレカードから電池を外してください。
- セレカードはお子様の手の届かない安全なところに保管してください。
電池を飲み込んだり、誤った操作をして生命にかかわる事故になる場合があります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。
- 電池は分解、加工、充電、ショート、加熱、火中投入などしないでください。
液漏れ、発火、発熱、破裂の原因となります。
- 電池を破棄する場合はテープなどで巻いて絶縁してください。
他の金属や電池を混ぜると発火、破裂の原因となります。

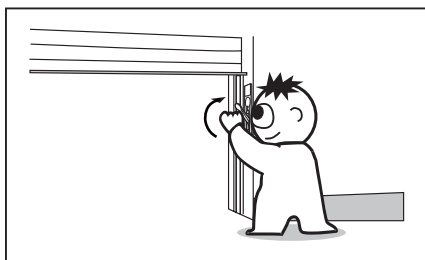
スマートタイプの使用に関する注意事項

警告 次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

- シャッターが見えないところから開閉操作を行う場合や、開閉タイマー設定をしている場合は、人・物などがはさまる、動き出したシャッターに驚いて転倒する等、おもわぬ事故につながるおそれや、防犯効果の低下につながるおそれがあることをご理解いただいた上で操作してください。
- シャッターが見えない場所から開閉操作する場合には、事故防止のためにも遠隔監視カメラ（社外品・お客様用意）等、シャッター近傍や周囲の状況を把握しながら開閉操作ができるようにする設備・機器を設置して、使用することを推奨します。
- 詳細は別冊の「ワイヤレス集中制御システム＜セレコネクト 2＞」取扱説明書をご確認ください。

停電時の操作方法に関する注意

注意 次の注意事項を守って使用してください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。

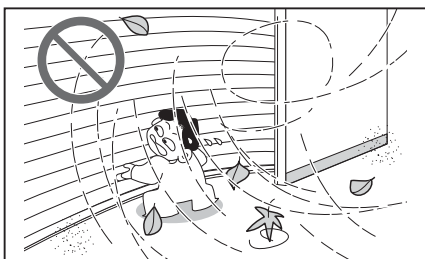


停電など非常時に手動操作に切り替えた場合、必ず電動操作にもどしてください。

手動操作のままにしておくと、シャッターを手で開けることができるため盗難のおそれがあります。

強風時の注意

警告 次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



台風などの強風時にはシャッターに近づいたり動かしたりしないでください。シャッターが外れて人や物にあたる場合があります。

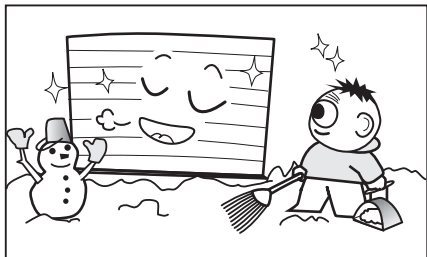
なお、強風でシャッターが外れた場合は、44ページ記載の文化シャッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。

厳寒時の注意

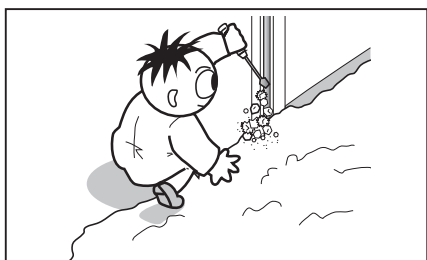


警告

次の警告事項を守って使用してください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



カーテン表面や座板の凍結・着雪を取り除いてから使用してください。カーテンが凍結したり、着雪した状態ではカーテンを正常に巻き取れない場合があります。



ガイドレール内の雪や氷は、取り除いてから使用してください。無理に開閉しようとすると、思わぬケガをする場合があります。



厳寒時にシャッターを開けた場合は、速やかに閉めてください。

シャッターを開けたままにすると、カーテンが凍結し、凍結したシャッターを閉めようとすると、カーテンから氷が外れ、シャッターが急に閉まる場合があります。シャッターが異常な動作をしたり、異常な音がする場合は、44 ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください（有償）。